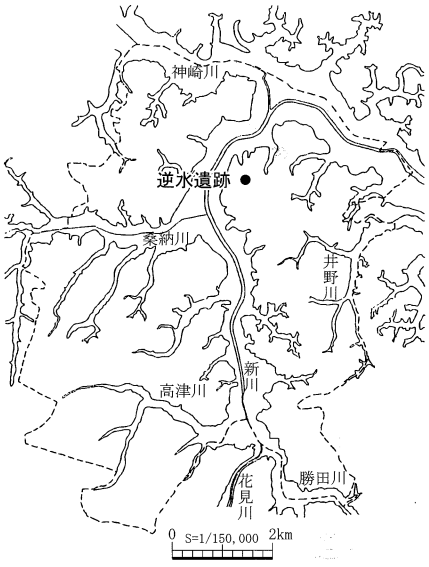
千 葉 県 八 千 代 市

逆 水 遺 跡 i 地 点

―福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



平成２７年度

社会福祉法人八千代翼友福祉会
八 千 代 市 教 育 委 員 会

例　言

1．本書は，八千代市教育委員会が平成27年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は福祉施設建設に伴うもので，事業者である社会福祉法人八千代翼友福祉会の委託を受けて実施した。

2．調査を行なった遺跡は逆水遺跡ｉ地点（遺跡№.100）で，所在地は八千代市米本1280－1および1280－4である。

3．調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査　平成27年度市内遺跡調査事業として，国庫及び県費の補助を受けて実施した。
期間　平成27年8月31日～9月14日　面積96㎡/1,419㎡（担当:轟　直行）

本調査　期間　平成27年11月11日～12月4日　面積151㎡（担当：轟）

本整理　期間　平成27年12月7日～平成28年3月31日（担当：轟）

4．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。

5．調査参加者は以下のとおりである。

本調査　鈴木一代，長谷川恵理子，八幡奈緒子，山本みつ江（あいうえお順）

本整理　八幡奈緒子，山下千代子（あいうえお順）

6．本書の遺物実測図作成およびトレースは八幡・山下が行ない，図版作成は轟，遺物観察表・遺物写真撮影・編集・執筆は轟が担当した。

7．報告書を作成するにあたり，小林嵩氏にご教示を賜った。

凡　例

1．本書における遺構実測図の用例

（1）図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。

（2）縮尺率は以下のとおりである。

竪穴建物跡1/80，ピット1/40

2．本書における遺物実測図の用例

（1）縮尺率は以下のとおりである。

土器実測図1/4，土器拓影図1/3，石製品1/2

（2）復元実測をした土器については遺存範囲を表現した。

（3）口径や底径といった法量を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。

本　文　目　次

例　言

凡　例

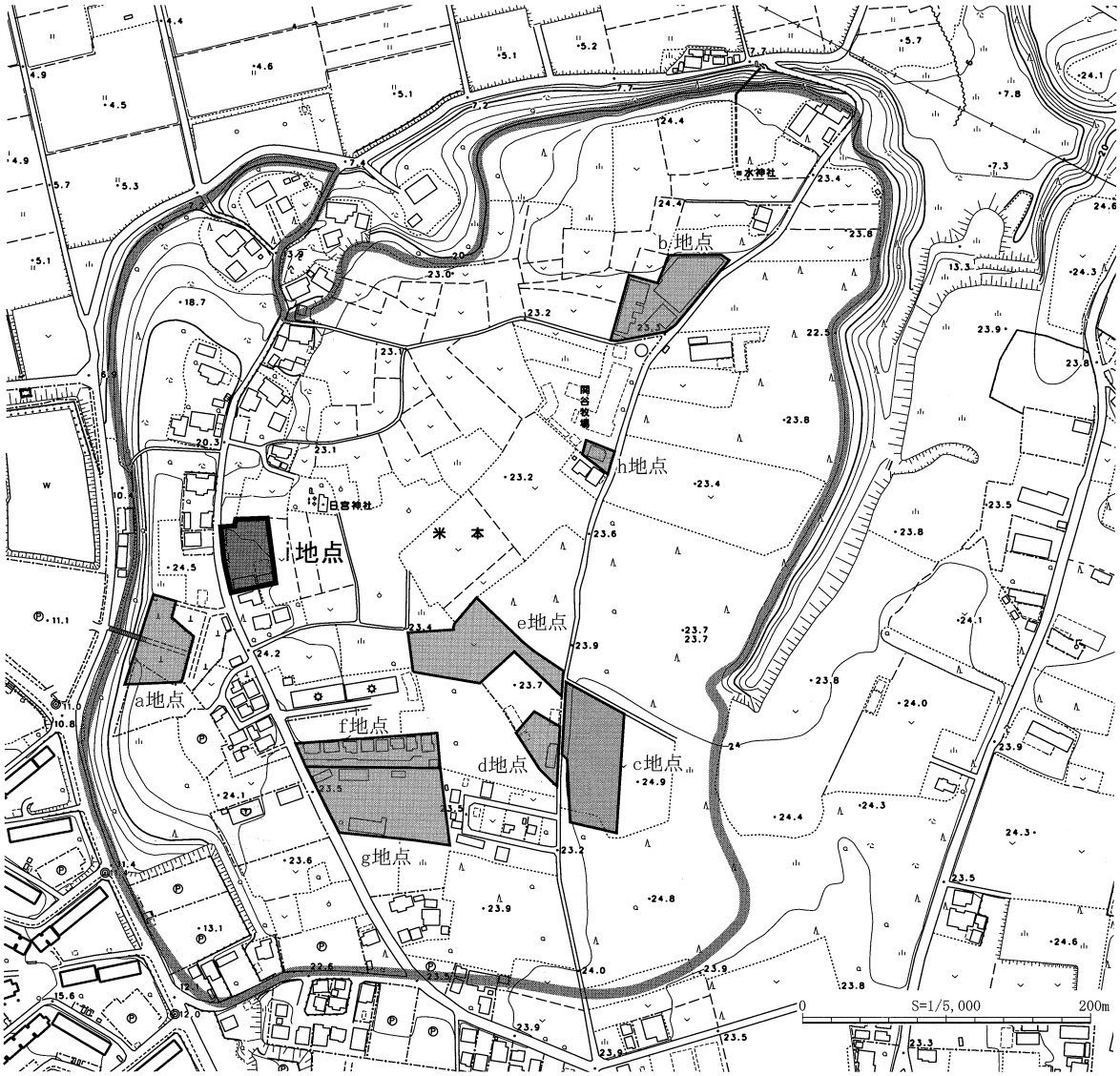
目　次

第１章　今回の調査に関する概要と過去の調査・・・

第１章　今回の調査に関する概要と過去の調査

調査の方法　市教委は測量会社に委託して世界測地系の座標を調査区内とその周辺に取り付けた。そして，この座標を基準に光波測量機を使用して調査に関わる測量を行なった。掘削作業については表土の掘削を重機で行ない，遺構確認は３層のソフトローム層で行なった。遺物の取り上げは光波測量機による全点ドット上げで行なった。

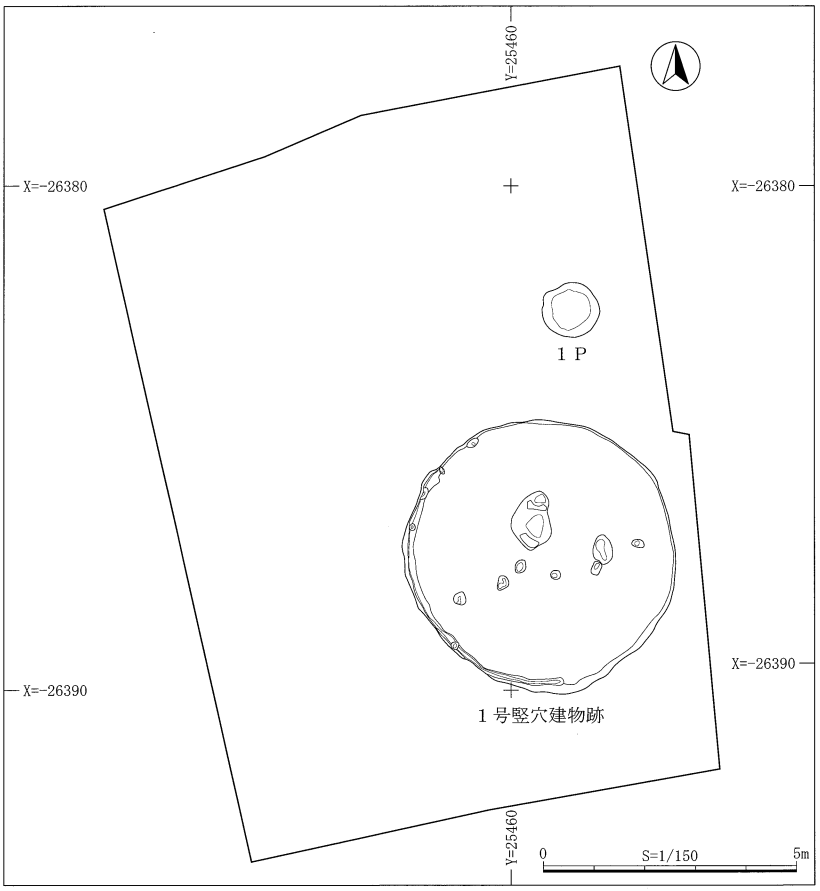
調査経過　11 月 11 日は機材搬入を行ない，11 月 12 ～ 13 日にかけて重機による表土剥ぎを行ない，弥生時代の竪穴建物跡１軒，中世の土坑１基を検出。同月 16 日に弥生時代の竪穴建物跡の掘削を開始し，12 月２日に掘削を終了した。中世の土坑は 11 月 20 日に掘削を開始し，12 月１日掘削を終了した。埋め戻しは 12 月４日に行ない，同日に終了し，調査は完了した。



第１図　今回の調査地点と過去の調査地点

第１表　逆水遺跡における過去の調査概要

地点名	調査形態	検出遺構	出土遺物	文献
a 地点	確認・本調査	弥生時代（竪穴建物跡４軒・土坑１基），中世（墓壙17基）	縄文土器（茅山式・浮島式・諸磯式・阿玉台式），弥生土器（後期土器），土師器（平安時代），近世（永楽通宝）	八千代市教育委員会編 1996『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告　平成７年度』
b 地点	確認・本調査	弥生時代（方形周溝墓６基），時期不明（溝１条・土坑２基）	弥生土器（宮ノ台式）	八千代市教育委員会編 1997『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告　平成８年度』
c 地点	確認調査	弥生時代（竪穴建物跡１軒）	弥生土器（後期土器）	八千代市教育委員会編 2003『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 14 年度』
d 地点	確認調査	弥生時代（竪穴建物跡２軒）	弥生土器（後期土器）	八千代市教育委員会編 2004『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 15 年度』
e 地点	確認調査	縄文時代（土坑 10 基），弥生時代（竪穴建物跡１軒）	縄文時代（阿玉台式・称名寺式・堀之内式・加曾利Ｂ式），弥生時代（後期土器），近世（寛永通宝）	八千代市教育委員会編 2007『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 18 年度』
f 地点	確認調査	なし	弥生時代後期（後期土器），近世（寛永通宝）	八千代市教育委員会編 2008『千葉県八千代市　逆水遺跡　北裏畑遺跡　高津新田遺跡　西山遺跡　内野遺跡　役山遺跡　川崎山遺跡　ヲサル山南遺跡』
g 地点	確認調査	縄文時代（竪穴建物跡１軒・陥穴１基），中世（土坑２基）	縄文時代（五領ヶ台式）	八千代市教育委員会編 2012『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 23 年度』
h 地点	確認調査	なし	なし	八千代市教育委員会編 2016『千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 27 年度』



第２図　今回の調査で検出された遺構

第２章　検出された遺構と遺物

今回の調査では，弥生時代後期の竪穴建物跡１軒，中世と思われる土坑１基が検出された。遺物としては縄文時代前期の興津式土器，同後期の加曾利Ｂ式土器，弥生時代後期の土器，中世の砥石が出土した。

基本層序としては，１層が表土の砕石層，２層が砕石を敷く際に盛られたと考えられる盛土層，３層がソフトローム層，４層がハードローム層である。遺構確認は３層で行なった。

第１節　弥生時代

１号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期

検出面：ソフトローム層

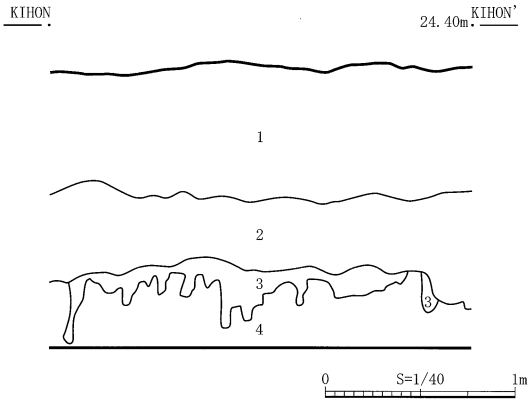
平面形態：円形

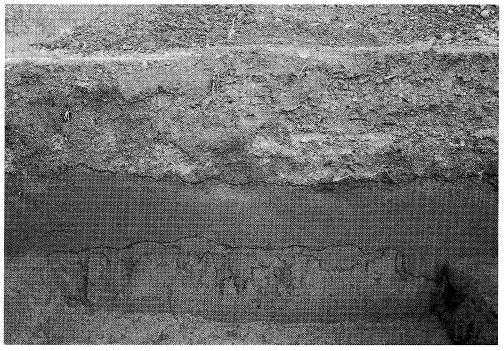
規模：長軸は5.44m程度，短軸は5.39m程度，貼床までの深さは0.31m程度，掘方までの深さは約0.38m程度である。

構造：炉が１基，本遺構に伴うと思われるピットが11基，壁溝が検出された。炉は底面直上に焼土が堆積し，その範囲は炉の中央付近に集中していた。また，炉の北端部は焼土の堆積がなく，かつ掘り込みもやや深い。ピットはいずれも掘り込みが浅い。壁溝も掘り込みは浅く，およそ半周程度で途切れていた。

本遺構は貼床が構築されていた。貼床を除去し，掘り方を精査したところ，工具痕の可能性がある幅0.14m程度の浅い落ち込みが多数検出された。

埋土：後世による削平によって判断が難しいが，レンズ状堆積と考えられることから自然に埋没したものと思われる。





基本層序土層説明

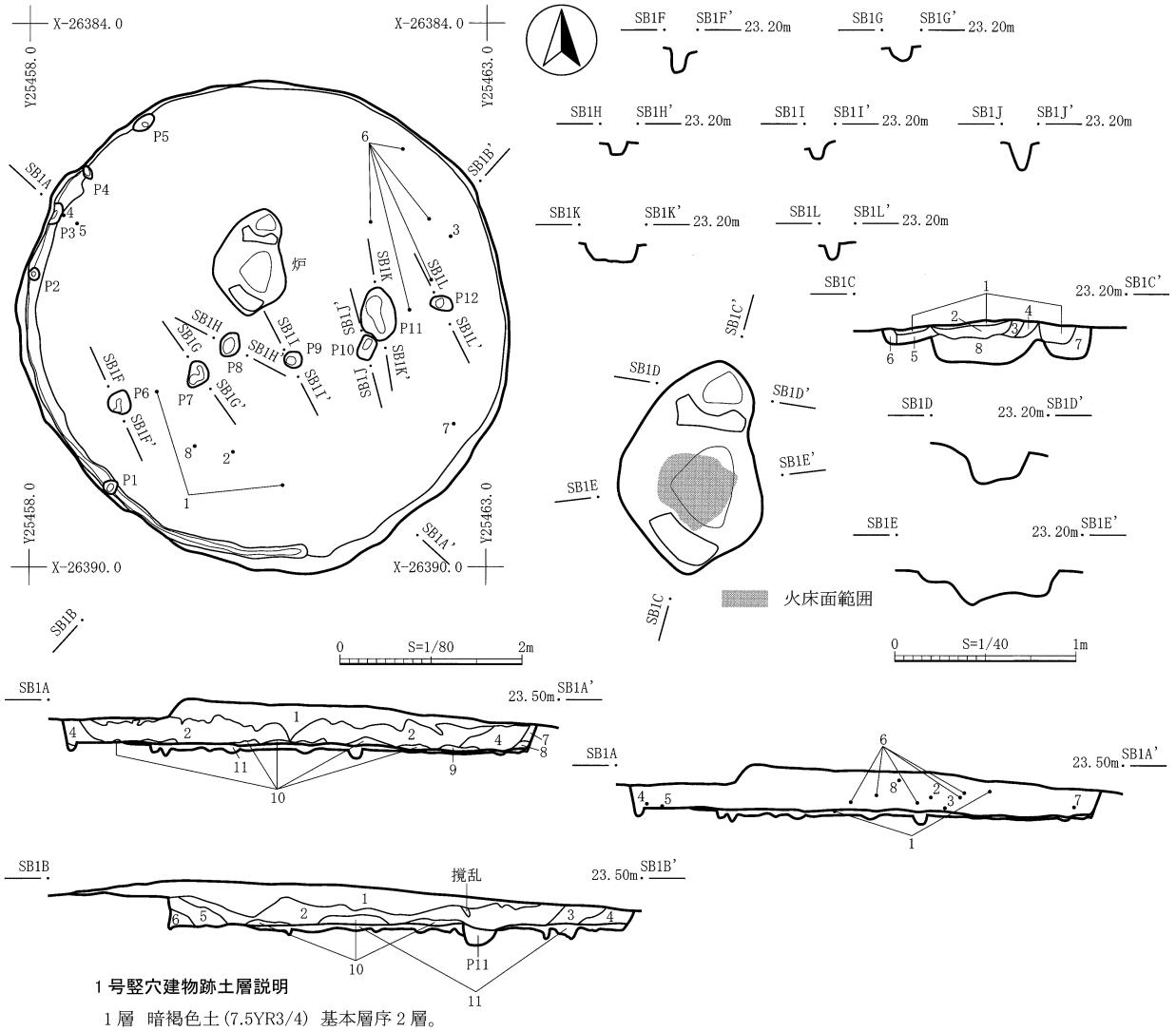
1層　表　　土(7.5YR3/4)　砕石層。

2層　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロック微量，黒色土ブロック微量含む。盛土層。

3層　褐　色　土(10YR4/4)　ソフトローム層。

4層　褐　色　土(10YR4/6)　ハードローム層。

第３図　基本層序



1号竪穴建物跡土層説明

1層　暗褐色土(7.5YR3/4)　基本層序2層。

2層　黒褐色土(7.5YR2/2)　しまり中，粘性中，暗褐色土(7.5YR3/4)ブロック中量，ロームブロック少量，ローム粒子微量含む。

3層　黒褐色土(7.5YR3/2)　しまり弱い，粘性やや弱い，ローム粒子微量，焼土粒子微量含む。

4層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまり弱い，粘性中，ロームブロック・粒子微量含む。

5層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。

6層　褐　色　土(7.5YR4/4)　しまり弱い，粘性中，ローム粒子微量含む。

7層　明褐色土(7.5YR5/6)　しまり弱い，粘性やや弱い，ローム主体層。

8層　褐　色　土(7.5YR4/4)　しまりやや強い，粘性中，ローム粒子微量含む。

9層　明褐色土(7.5YR5/6)　しまり中，粘性やや弱い，ローム主体層。

10層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり弱い，粘性中，ロームブロック・粒子中量含む。

11層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりやや強い，粘性やや強い，ロームブロック多量，ローム粒子少量含む。貼床層。

1号竪穴建物跡炉土層説明

1層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり中，粘性中，ローム粒子微量含む。

2層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり強い，粘性弱い，焼土ブロック(7.5YR5/8)多量含む。

3層　褐　色　土(7.5YR4/6)　しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。

4層　褐　色　土(7.5YR4/6)　しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック中量含む。

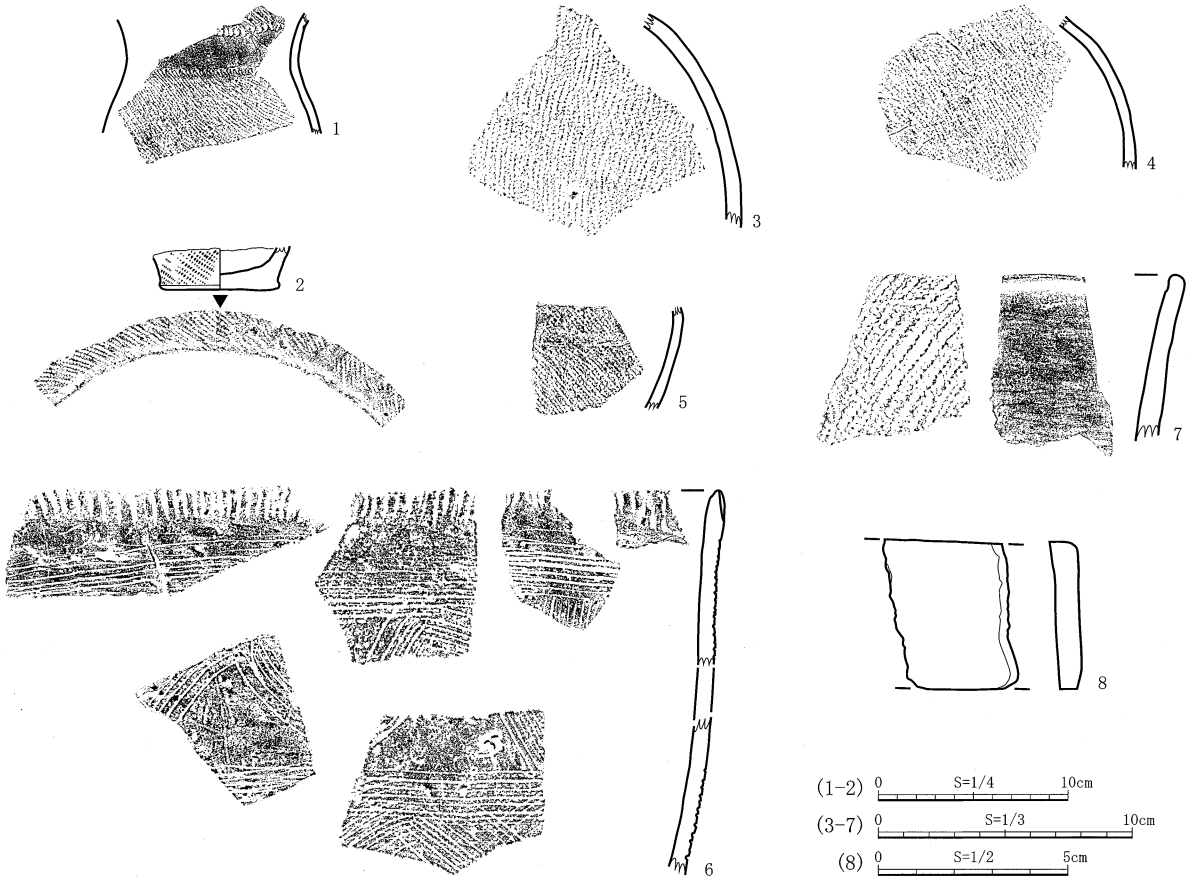
5層　明褐色土(7.5YR5/8)　しまり強い，粘性強い，ローム主体層。

6層　褐　色　土(7.5YR4/4)　しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。

7層　褐　色　土(7.5YR4/6)　しまりやや強い，粘性やや強い，ロームブロック・粒子少量含む。

8層　褐　色　土(7.5YR4/6)　しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック多量，ローム粒子微量含む。

第4図　1号竪穴建物跡



第５図　１号竪穴建物跡出土遺物

遺物出土状況：弥生時代後期に属する土器については２・４が埋土中から，３・５は床面直上から，さらに１は埋土から床面直上にかけて出土した。埋土中からは縄文時代の興津式土器である６，加曾利Ｂ式土器である７も出土した。また，正確には本遺構内から出土したわけではないが，本遺構の直上である１層（基本層序２層）中から中世の砥石である８が出土した。

遺物：１～５はいずれも弥生時代後期の甕であり，附加条１種が施されている。さらに，１については複合部が扁平化していることから弥生時代後期末に位置づけられる可能性がある。４・５は同一個体の可能性が高い。６は興津式土器，７は加曾利Ｂ式土器で口縁部内面に浅い沈線が施文されている。８は砥石で各面に使用痕跡が見られる。

第２節　中世

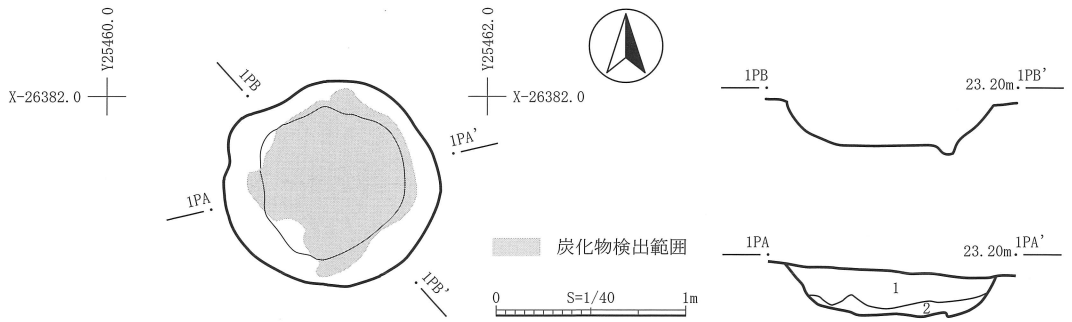
１Ｐ

検出面：ソフトローム層

平面形態：やや不整な円形

規模：長軸は1.14m程度，短軸は1.09m程度，深さは0.27m程度である。

埋土：本遺構からは遺物が出土しなかったため，埋土の特徴から時期を判断した。１号竪



1P 土層説明

1層　褐 色 土(7.5YR4/4) しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック・粒子微量，炭化物微量含む。

2層　褐 色 土(7.5YR4/4) しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物中量含む。

第６図　１Ｐ

穴建物跡の埋土は黒褐色と暗褐色を主とすることから，本遺構の埋土とは特徴が異なるため，本遺構は弥生時代に属するものとは考えられない。さらに，本遺構では埋土２層の最上面には炭化物が散っており，逆水遺跡ａ地点で中世の火葬墓が検出されていることも踏まえると，こうした炭化物の集中は中世の火葬と何かしらの関係があると考え，本遺構を中世に属すると判断した。

遺物：なし。

第２表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器

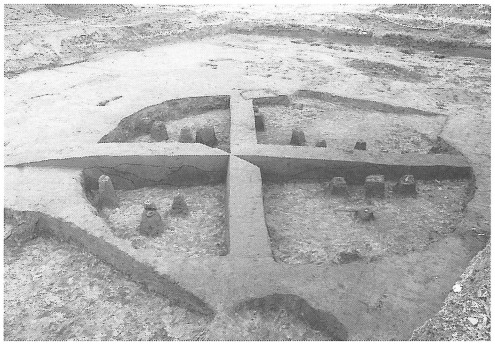
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
1	弥生後期 甕	頸～胴部 遺存率20%	残存高：9.4 cm	外面：明黄褐色（10YR7/6），灰黄褐色（10YR4/2） 内面：橙色（5YR7/8）	附加条１種，刺突文	雲母，石英，小石，砂粒，海綿骨針	埋土 床面直上	外面スス付着
2	弥生後期 甕	底部	底　径：6.3 cm 残存高：2.4 cm	外面：橙色（7.5YR7/6），褐灰色（7.5YR4/1，黒斑） 内面：橙色（7.5YR7/6）	附加条１種	雲母，石英，小石，砂粒	埋土	
3	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：灰黄褐色（10YR6/2），灰褐色（7.5YR4/2） 内面：灰黄褐色（10YR6/2）	附加条１種	雲母，石英，長石，砂粒	床面直上	外面スス付着
4	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：灰褐色（7.5YR5/2） 内面：にぶい橙色（5YR6/4）	附加条１種	雲母，石英，砂粒	埋土	外面スス付着，内面コゲ付着，No.５と同一個体か
5	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：灰褐色（7.5YR5/2） 内面：にぶい橙色（5YR6/4）	附加条１種	雲母，石英，砂粒	床面直上	No.４と同一個体か
6	興津式 深鉢	口縁～胴部 破片	－	外面：橙色（7.5YR7/6） 内面：橙色（7.5YR7/6）	平行沈線文，キザミ	雲母，長石	埋土	
7	加曾利Ｂ式	口縁～胴部 破片	－	外面：灰褐色（7.5YR6/2） 内面：橙色（7.5YR7/6）	沈線，LR 縄文	雲母，砂粒	埋土	

石製品

遺物No.	型式・器種等	石材	寸法	使用面	出土位置	その他
8	砥石	凝灰岩	最大長：3.9 cm 最大幅：3.2 cm 最大厚：0.7mm	３面	１層 （基本層序２層）	

写真図版１

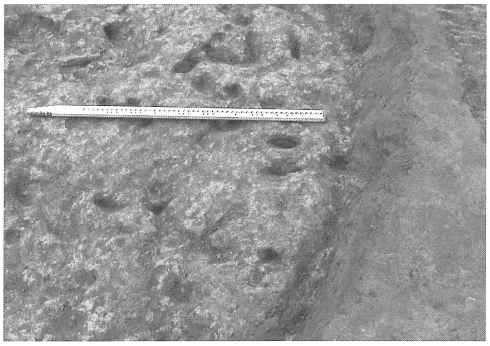
遺構検出状況（南から）



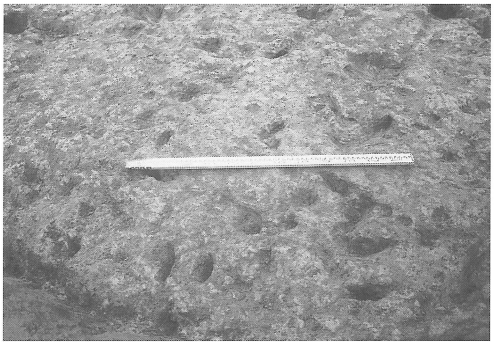
１号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）

１号竪穴建物跡完掘（南から）

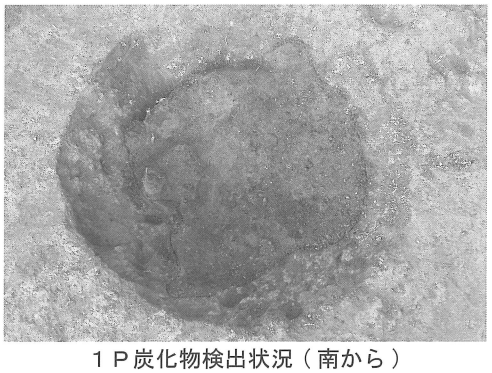
１号竪穴建物跡貼床除去状況（南から）



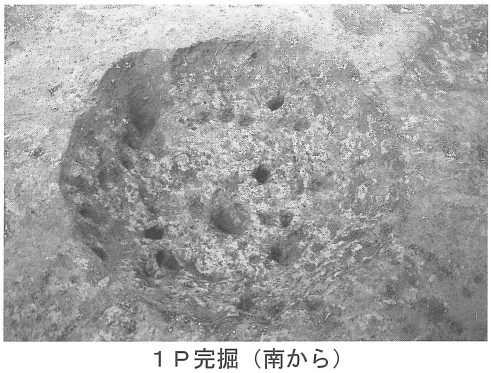
１号竪穴建物跡で検出された工具痕？（西から）



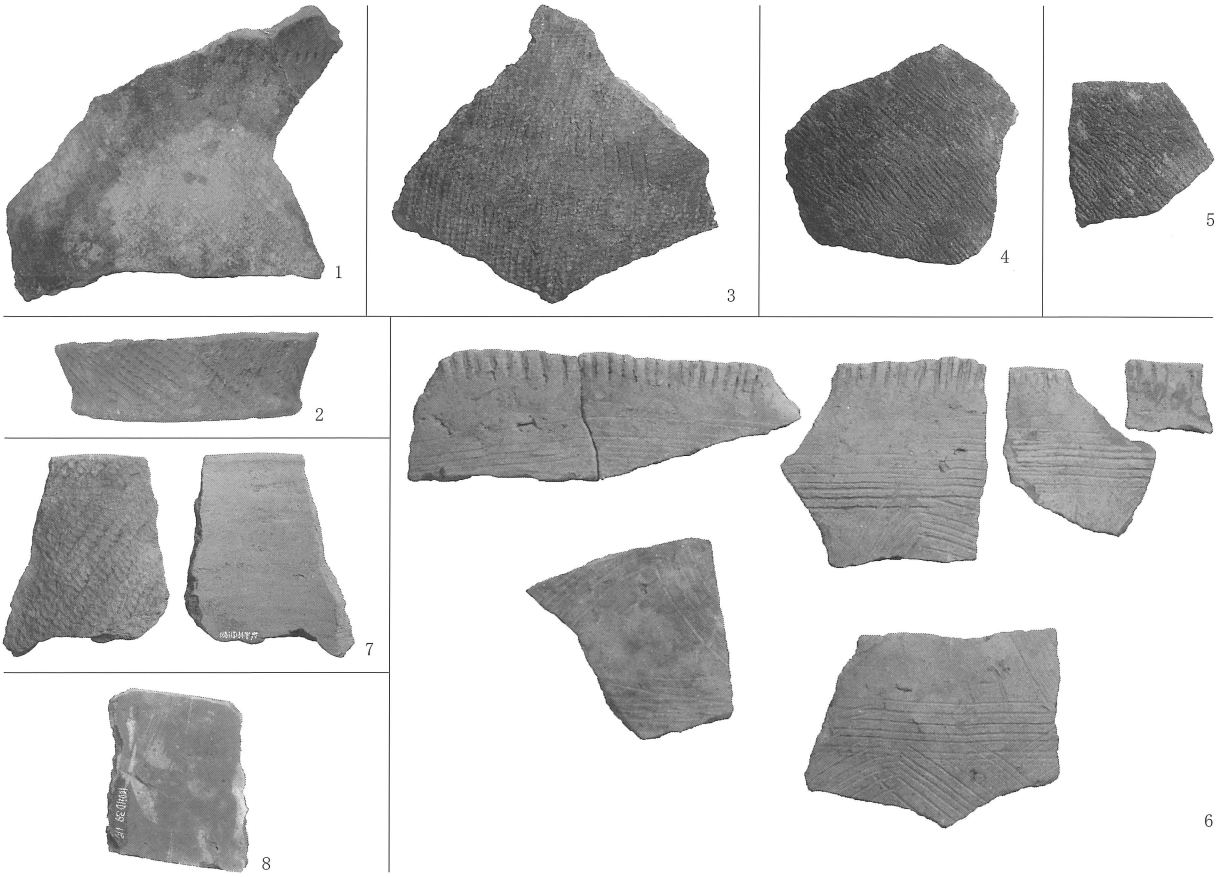
１号竪穴建物跡で検出された工具痕？（南から）



１Ｐ炭化物検出状況（南から）



１Ｐ完掘（南から）



１号竪穴建物跡出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし　さかさみずいせきあいちてん							
書名	千葉県八千代市　逆水遺跡i地点							
副書名	福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	轟　直行							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒 276-0045　千葉県八千代市大和田 138 番地2　TEL 047(483)1151　代表							
発行年月日		西暦 2016 年3月 31 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
さかさみずいせきあいちてん 逆水遺跡i地点	よなもと 米本 1280-1, 1280-4	12221	100	35 度 45 分 43 秒	140 度 6分 5 秒	2015.11.11 ～ 2015.12. 4	151 （上層）	福祉施設 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
逆水遺跡i地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 中世	竪穴建物跡，ピット	縄文土器，弥生土器，砥石	
要約	今回の調査では弥生時代の竪穴建物跡1軒，中世のピット1基を検出した。 遺物としては縄文時代前期の興津式土器，同後期の加曾利B式土器，弥生時代後期の土器，中世から近世初頭と考えられる砥石が出土した。				

千葉県八千代市　逆水遺跡ｉ地点

―福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日	平成 28 年３月 31 日
編　　集	八千代市教育委員会　教育総務課
	〒 276-0045　八千代市大和田 138-2
	ＴＥＬ　047-483-1151（代表）
発　　行	社会福祉法人八千代翼友福祉会
印　　刷	株式会社富士印刷